



磐梯朝日国立公園満喫プロジェクト

磐梯吾妻・猪苗代地域

ステップアッププログラム2025



令和4（2022）年3月

磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会

はじめに

磐梯朝日国立公園は昭和 25(1950)年に指定され、令和 2 (2020) 年に指定 70 周年を迎えた。本国立公園の中でも磐梯吾妻・猪苗代地域は、多様で豊かな自然資源と首都圏からのアクセスの良さに恵まれ多くの公園利用者が訪れて様々な自然体験を楽しんでいる。

しかしながら、公園利用者数は近年減少傾向にあり、利用者に新たな魅力の提供や魅力の再発見をしてもらうための取組が必要な状況となっている。

また、環境省では「明日の日本を支える観光ビジョン」（平成 28(2016)年 3 月 30 日、明日の日本を支える観光ビジョン構想会議）に基づき、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標とした「国立公園満喫プロジェクト」（以下「プロジェクト」という。）を進めてきた。このプロジェクトは昨年度が最初の目標年度だったが、今後も継続して取組を行っていくこととされており、方針として基本的な視点の継続重視、ウィズコロナ・ポストコロナ時代への対応として国内誘客強化、これまでの経験を基に全 34 公園の底上げをする為の水平展開とさらなる高みを目指した集中的な垂直展開が計画されており、磐梯吾妻・猪苗代地域においても水平展開として、地域の持つ魅力を将来世代に引き継ぐために守りながらも新たに磨き、又はもう一度磨きなおし、上質な自然体験やサービスを提供することにより、地域内・国内・海外問わず利用者を惹きつけ満足させる施策が求められている。

このため、国・県・市町村及び民間事業者・団体等の多様な関係主体の連携による令和 7(2025)年度までの地域の魅力向上の取組方針及びアクションプランとして、「磐梯朝日国立公園満喫プロジェクト磐梯吾妻・猪苗代地域ステップアッププログラム 2 0 2 5」（以下「本プログラム」という。）を策定するものである。

【目次】

1. 現状分析	1
(1) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域の特徴	1
(2) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域の利用状況	5
(3) 主要なアクセスルートの状況	8
(4) ビュースポットの状況	9
(5) 登山道・探勝路の状況	11
(6) 体験プログラムの実施状況	13
(7) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域の課題	15
2. コンセプト・ビジョンと基本方針	19
(1) 磐梯吾妻・猪苗代地域のかげがえのない価値	19
(2) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域のコンセプト	21
(3) ありたい未来（ビジョン）	22
(4) 基本方針	23
3. ターゲット	24
4. 目標	25
5. プロジェクトの実施	26
6. 役割分担とスケジュール	31
7. 取組の推進体制	32
8. 効果検証	33
9. プログラムの更新・改善	33
参考資料	34

1. 現状分析

(1) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域の特徴

1) 磐梯吾妻・猪苗代地域の概要

磐梯朝日国立公園は、山形県・福島県・新潟県にまたがり、歴史ある山岳信仰の霊場で知られる出羽三山から朝日連峰にかけての地域、ブナなど深い天然林に覆われた飯豊連峰を中心とした地域、そして特徴的な火山地形を持つ磐梯吾妻・猪苗代地域の3つの地域からなる。

昭和25(1950)年に日本で17番目の国立公園として指定され、面積も186,375haと陸域では2番目の広さを持ち、東北地方中南部の主要な自然地域が保全されている。



磐梯朝日国立公園の見どころ

磐梯吾妻・猪苗代地域は、明治21(1888)年に大爆発をおこした磐梯山を始め火山活動により形成された多様な地形、景観が大きな特徴であり、磐梯山とその北側の裏磐梯を有する磐梯地区、西吾妻山を最高峰とする吾妻連峰と安達太良山を包括する吾妻地区、猪苗代湖を包括する猪苗代地区の3地区に分けられる。また、磐梯山ジオパークとして日本ジオパークに認定されており、磐梯山を中心に磐梯町、猪苗代町、北塩原村には多くの個性的なジオサイトが広がる。

季節による変化にも富み、冬季は日本でも有数の多雪地として複数のスキー場をはじめ冬のアクティビティが盛んで、春の雪解けと新緑とともに自然や景観を楽しむシーズンに入り、夏季の山岳や高原に多くの利用者を集め、秋には広大な紅葉の景観を楽しむなど、ダイナミックな移り変わりが大きな魅力を生んでいる。

国立公園内には、高湯温泉、土湯温泉、岳温泉、横向・沼尻・中ノ沢温泉、白布温泉など、名だたる温泉地が点在し、観光地として人気を博している。歴史・文化的にも見どころが多く、歴史的名所やエピソード、郷土食や地酒などの食文化、伝統工芸品など、地域全体に質の高い観光資源が豊富に存在している。

2) 磐梯朝日国立公園指定の原点

昭和 25(1950)年の国立公園の指定理由に次のような選定理由が記されている。

「きわめて特徴的な爆裂火山を有する成層火山（磐梯山）を中心とした火山連峰及びこれらを風景型式とし、原始的な自然、豪雪環境によりもたらされた自然林生態系、壮大な火山景観、火山活動により造形された清らかな湖沼群といった非常に変化に富んだ自然景観を持ち、それぞれ傑出性が高い」

公園計画書(平成 31(2019)年 3 月 18 日付け)より

◆基本方針◆

磐梯吾妻・猪苗代地域は山形県と福島県に跨っており、磐梯山その北側の裏磐梯を有する磐梯地区、西吾妻山を最高峰とする吾妻連峰と安達太良山を包括する吾妻地区、猪苗代湖を包括する猪苗代地区の 3 地区に分けられる。

磐梯地区は、明治に噴火した磐梯山の荒々しい山脈とその噴火によって形成された裏磐梯の 300 ともいわれる湖沼群が特有の景観を呈している。

吾妻地区は、2000m級の新旧火山が連なり、オオシラビソなどの天然林が広がり、山中には湿原が点在し、地区内には数多くの温泉が湧出している。また、東側の安達太良山も荒涼とした火口原が広がっている。

猪苗代地区は、磐梯山麓に位置し、日本で 4 番目の面積を誇る広大な湖である猪苗代湖からなり、冬季にはコハクチョウをはじめとする渡り鳥の飛来地となっている。

主要な保護対象は、磐梯山の爆裂火口、五色沼をはじめとする火山性堰止湖沼群並びに火山群峰である吾妻連峰及び安達太良連峰であり、風致を維持するために必要な区域を特別地域に指定する。

吾妻連峰（吾妻山稜）、安達太良山（沼ノ平）、裏磐梯（五色沼）、磐梯山などの原生的自然景観を保護するために必要な区域は、特別保護地区に指定する。また、特別保護地区に準ずる景観を有する区域は第一種特別地域に指定する。

鎌沼および五色沼については、水環境を保全するため指定湖沼に指定する。

浄土平へのスノーモービル乗り入れを防止し、高山植物などの損傷を防止するため、スノーモービル乗り入れのアクセス部及び乗り回しが予想される地域を車馬もしくは動力船の使用または航空機の着陸を規制する地域に指定する。

3) 磐梯吾妻・猪苗代地域の自然環境の特徴

明治 21(1888)年の磐梯山噴火で生まれた「若い原生自然と生態系」「活発な火山活動」と「火山によりつくられた大地の景観」を目の当たりにできる世界的にも貴重な地域

磐梯吾妻・猪苗代地域は全域が火山活動の活発な地域であり、磐梯山を中心に 30 万年ともされる間に噴火を繰り返してきた。磐梯山は、有史以降では 806 年に噴火があり、その後大きな噴火はなかったものの明治 21(1888)年の水蒸気爆発による大噴火で、周辺に現在に通じる環境の変化がもたらされた。

吾妻連峰の山々、安達太良山も火山活動によって形成され、五色沼（魔女の瞳）も火口にできたカルデラ湖である。浄土平や安達太良山など、今なお火山ガスが湧出し、火山活動を間近に見ることができる。そして火山活動で形成された大地に生まれ、遷移してきた自然がこの地域の特徴である。

火口湖や窪地から形成され遷移してきた湿原、火山の堆積物で堰き止められ形成された数多くの湖沼、遷移が進んだ針葉樹の原生的森林と四季の変化に富んだ気候により、この地域には多様な生物相が育まれてきた。火山活動によって破滅的なリセットを余儀なくされた大地に、パイオニア植物が根づき徐々に多様化していく遷移を続ける。

磐梯吾妻・猪苗代地域の自然は、この百数十年でかたちづくられ成長しているまさに「できたての若い自然」と言える。それを実際に目にすること、その環境に身を置くことができることこそ、世界でも貴重なこの地域の自然環境の特徴である。

磐梯吾妻・猪苗代地域
地域区分別面積

特別地域	特別保護地区	3,643ha
	第 1 種特別地域	6,399ha
	第 2 種特別地域	23,176ha
	第 3 種特別地域	24,281ha
普通地域		10,730ha
総面積		68,229ha

(2018年3月31日現在)



磐梯地区

明治に噴火した磐梯山の荒々しい山脈とその噴火によって形成された桧原湖、小野川湖、秋元湖の3つの大きな湖をはじめ、裏磐梯の300余りの湖沼群の特有の景観がある。磐梯山西側の雄国沼はニッコウキスゲの大群落で知られ、湿原の植物群落は国指定天然記念物に指定されている。地区内では、湖沼を巡る探勝路やキャンプサイトが整備され、裏磐梯の代表的な自然を楽しむことができる。

吾妻地区

吾妻連峰には2,000m級の新旧火山が連なっており、オオシラビソなどの天然林が広がり、山中には湿原が点在している。浄土平、安達太良山などでは、今なお火山ガスが噴出する荒涼とした火山景観を見ることができる。また、地区内には数多くの温泉が湧出している。浄土平ビジターセンターを基点とした吾妻小富士や一切経山、五色沼（魔女の瞳）への登山・トレッキングが人気である。さらに、標高1,600mに天文台を有する日本屈指のスターウォッチングスポットとしても知られている。

猪苗代地区

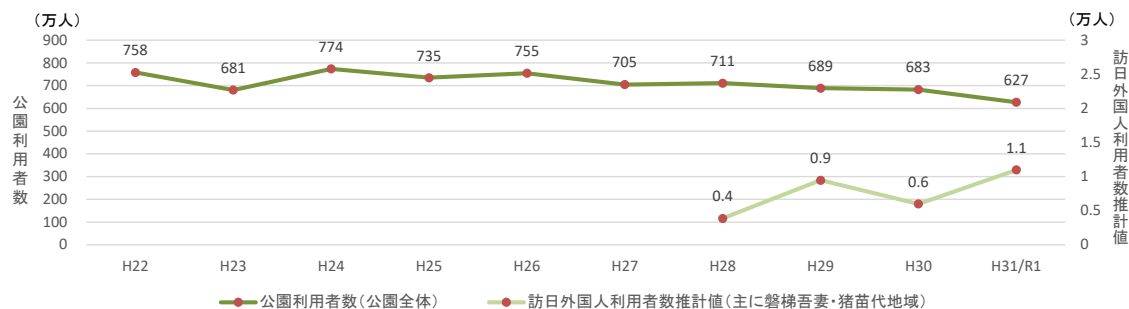
磐梯山麓に位置し、日本で4番目の面積を誇る広大な湖である猪苗代湖があり、どこからでも雄大な磐梯山の山容を望むことができる。猪苗代湖は水面の標高が514mと日本でも有数の高地にある湖である。天を映す鏡のような美しさから別名「天鏡湖」とも呼ばれている。冬季にはコハクチョウをはじめとする渡り鳥の飛来地となっている。湖畔には湖水浴場が点在しており、天神浜にはキャンプ場があり、様々なイベントが開催されている。



(2) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域の利用状況

1) 公園利用者の状況

磐梯朝日国立公園の利用者数は減少傾向にあり、令和元(2019)年は 627 万人であった。一方で、磐梯吾妻・猪苗代地域で推計した訪日外国人利用者数は増加傾向にあり令和元(2019)年は 1.1 万人であった。

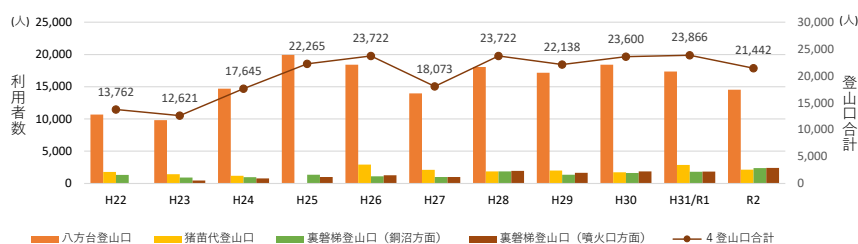


磐梯朝日国立公園 公園利用者数の推移

磐梯吾妻・猪苗代地域の公園利用者数の推移の指標として、磐梯山の各登山口に設置したカウンターの値をみると、東日本大震災が発生した平成 23(2011)年は利用者数の落ち込みが顕著であったが、翌年からは徐々に回復してきている。平成 22(2010)年度の合計が 1.4 万人であったのに対し、令和元(2019)年には 2.4 万人（平成 22 年度比 160%）に増加している。

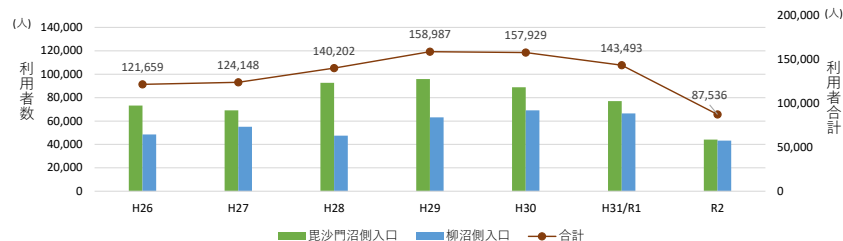
五色沼自然探勝路の 2 か所の入口に設置したカウンターをみると、データがある平成 26 (2014)年から増加傾向であったが、平成 29(2017)年をピークに減少傾向に転じているものの、令和元(2019)年の 4 月下旬から 11 月末までの 7 か月間は 14 万人以上が利用している。

いずれも令和 2(2020)年には新型コロナウイルス感染拡大の影響による減少が見られる。



磐梯山登山口利用者数の推移

※夏山シーズンが始まる 7 月から 11 月 15 日の閉山までの集計値
 ※翁島・川上・渋谷の各登山口の計測は、3 年間で利用者数の傾向の把握ができたため、平成 25 (2013) 年以降は計測機器を未設置



五色沼自然探勝路入口利用者数の推移

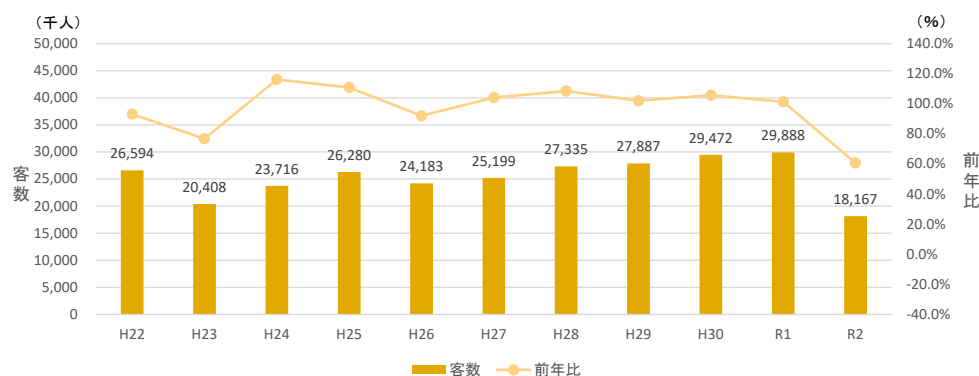
※4 月下旬のゴールデンウィークから 11 月末までの五色沼自然探勝路の利用者数集計値

※利用者数の値は機器によって測定された数字であり、必ずしも実際の利用者数を表したものではない。

国立公園関係市町村地域への観光入込客数の推移

本地域を含む 10 市町村の観光入込客数は平成 23(2011)年の東日本大震災により、前年比で 23%減少したが、徐々に回復して令和元(2019)年度には震災前の水準を超えて約 3 千万人が来訪した。しかし、震災以降に回復できず、横ばいから減少傾向が続いている市町村もある。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和 2(2020)年度の 10 市町村の観光入込客数は約 1.8 千万人となり、前年比で 39%減少している。



10 市町村の観光入込客数の推移 (千人)

※10 市町村：米沢市、福島市、会津若松市、郡山市、喜多方市、二本松市、大玉村、北塩原村、磐梯町、猪苗代町

観光地別では、震災以降に増加傾向がみられるところもあるが、顕著な減少傾向がみられるスキー場や温泉地があり、近年の雪不足の影響だけでなく、観光ニーズの変化などの影響があるものと考えられる。



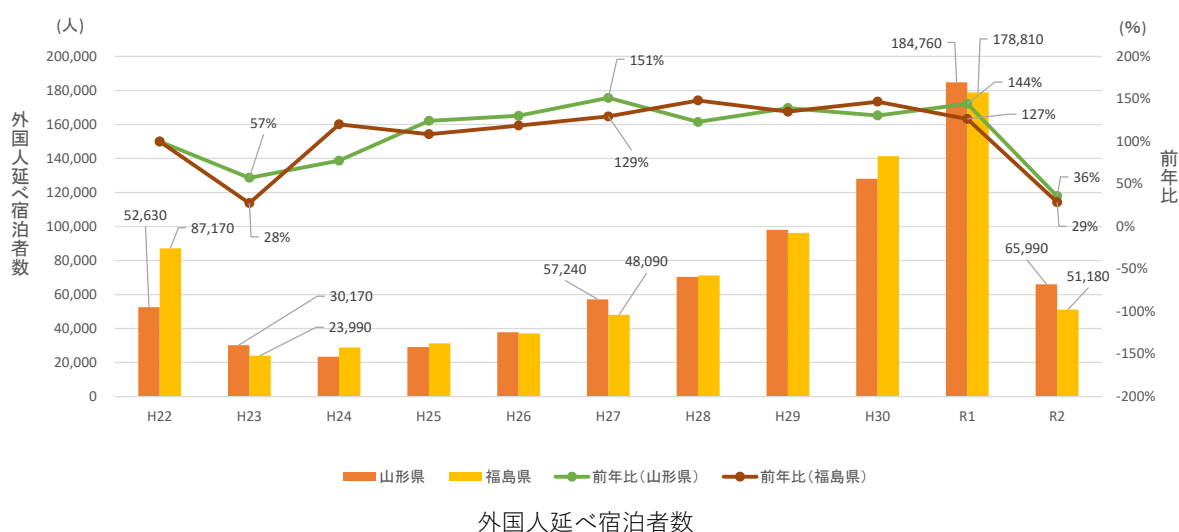
観光地別の観光入込客数の推移 (人)

出典：山形県観光者数調査、福島県観光客入込状況

2) 訪日外国人旅行者の状況

福島県、山形県の外国人宿泊者数は、東日本大震災により一時減少したが、その後急激に増加し、令和元(2019)年には福島県で約 17 万 9 千人、山形県で約 18 万 5 千人となり、それぞれ震災前の平成 22(2010)年と比較して、205%、351%に増加している。なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響により外国人宿泊者数は大幅に減少し、両県とも令和 2(2020)年は前年の 1/3 程度となっている。

外国人宿泊者数の内訳を見ると、コロナ前の令和元(2019)年では福島県では上位 3 位の台湾、タイ、中国の合計が全体の 59%、同様に山形県では台湾、中国、香港の合計が全体の 68%となっており、欧米からの旅行者は多くない。



各県の外国人延べ宿泊者の国籍・地域別割合

【山形県】

年	H27		H28		H29		H30		R1		R2	
延べ宿泊者数(人)	57,240		70,400		98,040		128,020		184,760		65,990	
内訳: 国籍別 宿泊者の割合 (%)	台湾	43	台湾	44	台湾	46	台湾	45	台湾	49	台湾	43
	韓国	11	中国	11	韓国	11	香港	8	中国	10	中国	11
	中国	10	韓国	11	中国	10	中国	11	香港	9	香港	13
	米国	7	香港	6	香港	8	韓国	7	タイ	6	タイ	8
	香港	3	タイ	5	米国	5	タイ	5	韓国	5	韓国	2
	その他	26	その他	22	その他	20	その他	23	その他	21	その他	23

【福島県】

年	H27		H28		H29		H30		R1		R2	
延べ宿泊者数(人)	48,090		71,270		96,290		141,350		178,810		51,180	
内訳: 国籍別 宿泊者の割合 (%)	台湾	24	台湾	26	台湾	29	台湾	30	台湾	33	台湾	28
	中国	14	中国	17	中国	13	タイ	13	タイ	14	タイ	17
	米国	13	米国	8	タイ	10	中国	13	中国	12	中国	8
	韓国	10	韓国	7	米国	10	越南	8	越南	8	越南	5
	タイ	4	タイ	4	韓国	5	豪州	5	米国	5	米国	5
	その他	34	その他	38	その他	32	その他	32	その他	29	その他	38

出典：宿泊旅行統計調査（観光庁）

(3) 主要なアクセルート の 状況

当該地へのアクセス手段としての広域交通は、東北・山形新幹線、JR 東北本線と JR 磐越西線、各都市間を結ぶ高速バスである。鉄道でのアクセスの場合、東京ー猪苗代間は、乗継を含めて約 2 時間 30 分、仙台からは 1 時間 30 分となっている。当該地域への最寄り駅の一つとして猪苗代駅があるが、バス・タクシー、レンタカー等の二次交通によるアクセスが必要となる。なお、JR 磐越西線は、沿線の人口減少、通学通勤者の減少等により、利用者数が減少している。

広域公共交通に接続する地域公共交通は路線バスであり、福島駅、猪苗代駅、二本松駅、米沢駅を起点として本公園にアクセスする路線バスが運行されている。



磐梯吾妻・猪苗代地域の交通ネットワーク

(4) ビュースポットの状況

特徴的な景観

磐梯吾妻・猪苗代地域では、地形・地質、植生、文化等多様性に富んだ景観を随所で望むことができる。この地域ならではの魅力を国内外にアピールできる特徴的な景観としては、主に以下の3つの景観が挙げられる。

磐梯吾妻・猪苗代地域の特徴的な景観

- 火山がつくりあげた大地と湖沼群
- 猪苗代湖にまつわる景観
- 温泉街のまちなみ景観

火山がつくりあげた大地と湖沼群

火山活動により形成された磐梯山、吾妻連峰、安達太良山や裏磐梯三湖（桧原湖、小野川湖、秋元湖）や五色沼湖沼群などの300もの湖沼群が他にはない独特の景観をつくっている。



白布峠から見た桧原湖



安達太良山の沼ノ平火口



一切経山からの五色沼（魔女の瞳）の眺め



五色沼湖沼群

猪苗代湖にまつわる景観

磐梯山の噴火によりせき止められできた猪苗代湖も本地域の特徴的な景観を形成する重要な資源となっており、磐梯山との一体的な景観は大きな魅力の一つである。



志田浜



崎川浜

温泉街のまちなみ景観

この地域には、土湯温泉、中ノ沢温泉、岳温泉、高湯温泉、白布温泉、姥湯温泉、滑川温泉などの温泉が多く立地しており、古くからの歴史と文化のある温泉街の景観が地域の特徴となっている。



土湯温泉



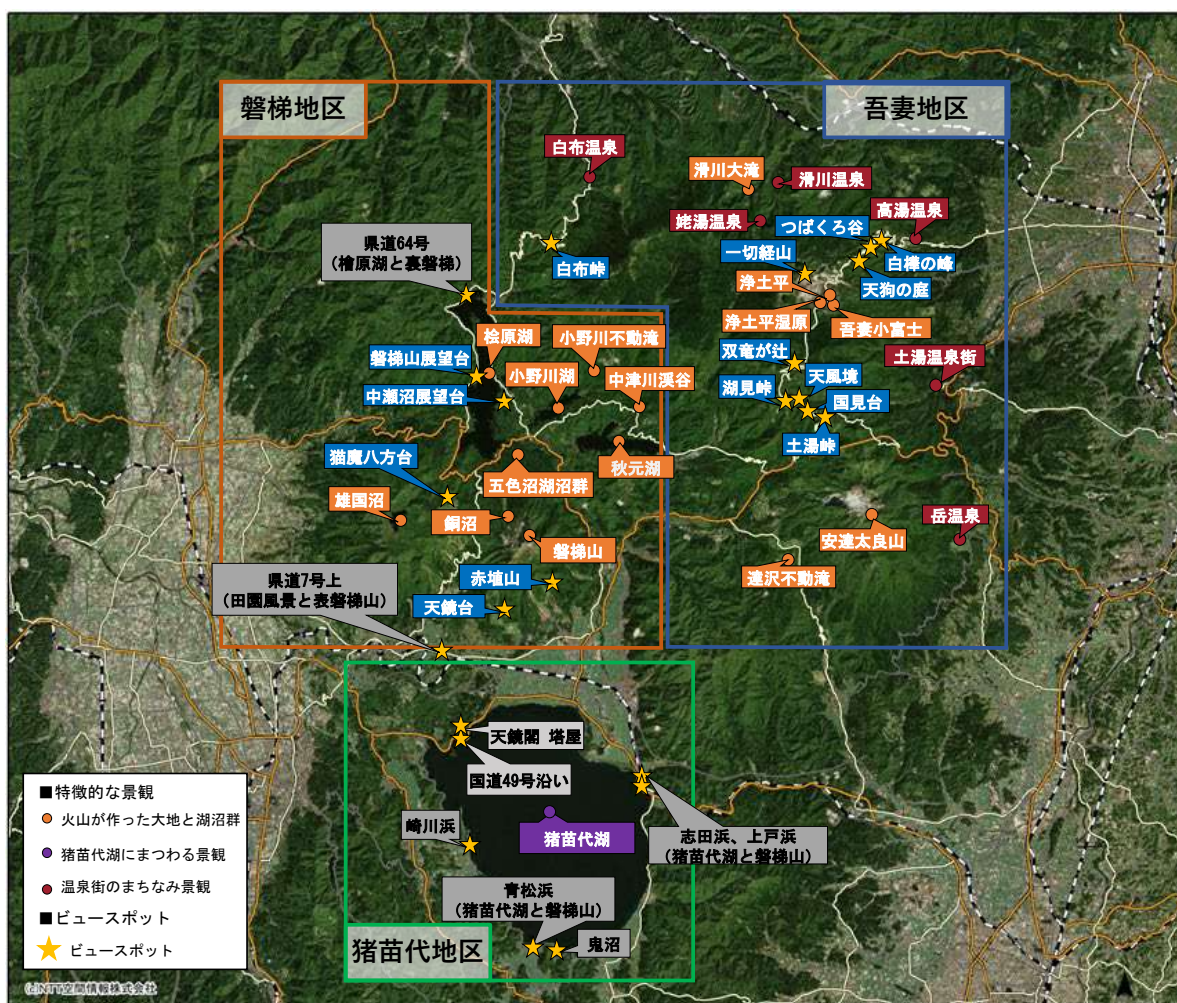
高湯温泉



白布温泉

ビュースポット

磐梯吾妻・猪苗代地域では、以上に示した特徴的な景観を形成する景観資源と併せて、それらの眺望を利用者が楽しむための主要なビュースポット（視点場、眺望地点）の保全も重要である。公園区域内の主要な道路の沿道にもビュースポットが多く分布している。



特徴的な景観とビュースポットの分布状況

(5) 登山道・探勝路の状況

磐梯吾妻・猪苗代地域には、多くの登山道・探勝路が整備されており、磐梯山や吾妻連峰、安達太良山を目指したルートとなっている。

磐梯地域

磐梯山南側に位置する登山口から磐梯山を目指す登山道と、裏磐梯である磐梯山北側に位置する登山口から磐梯山を目指す登山道、ゴールドライン沿いの八方台登山口から磐梯山を目指す登山道が整備されている。また、桧原湖、雄国沼、五色沼などの周辺には探勝路が整備されている。



磐梯山



雄国沼

吾妻地域

西吾妻山、東吾妻山などを目指す登山道があり、吾妻連峰を縦走する登山道によって繋がっている。また、安達太良山では、安達太良高原スキー場や塩沢スキー場などから安達太良山山頂を目指す登山道が整備されている。



吾妻連峰



安達太良山

猪苗代地域

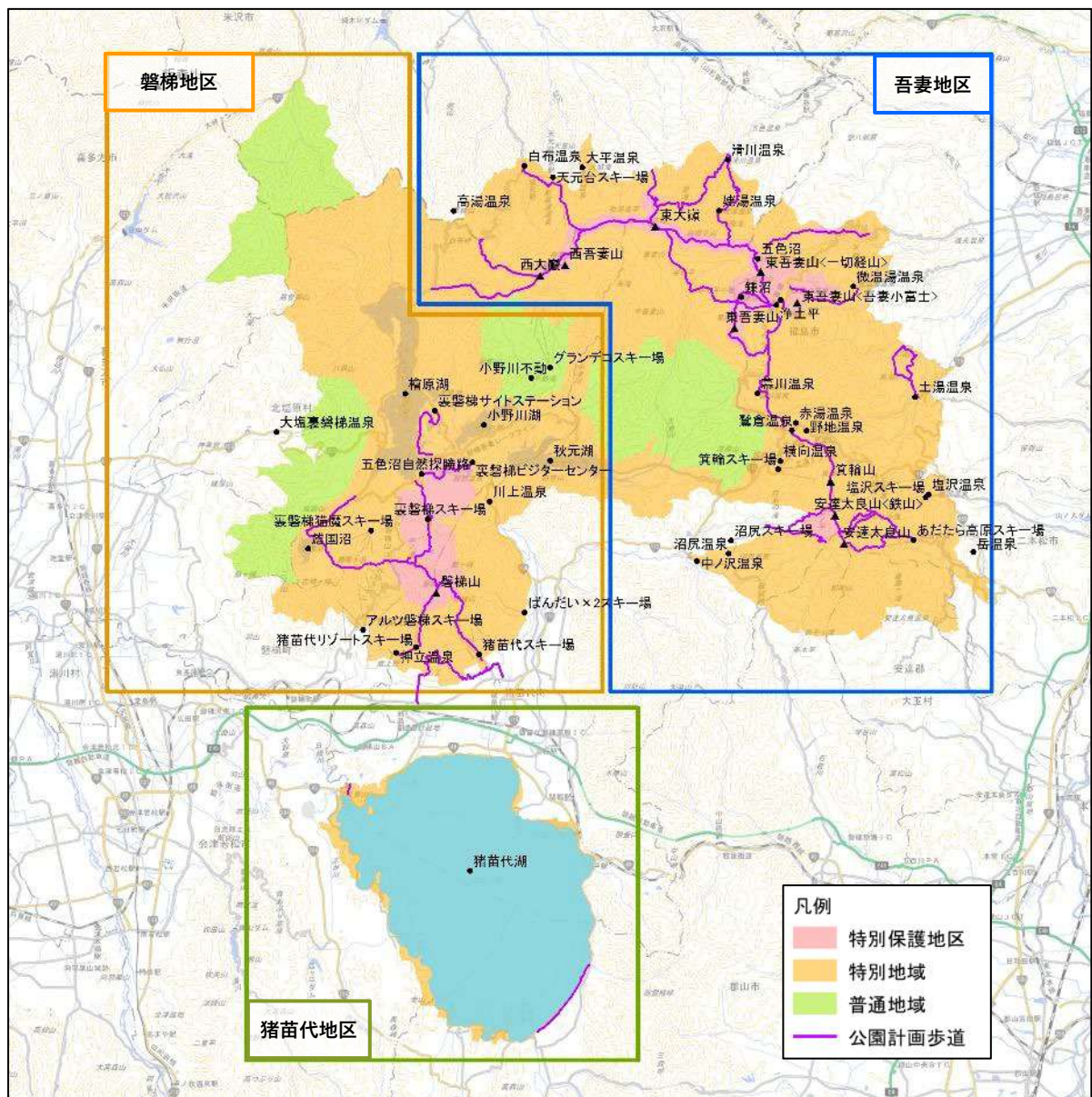
猪苗代湖畔をめぐる探勝路が整備されており、湖畔から雄大な磐梯山を望むことができる。



猪苗代湖



鬼沼（郡山市湖南町）



主な登山道・探勝路

(6) 体験プログラムの実施状況

磐梯吾妻・猪苗代地域では、それぞれの地区において民間事業者・団体等により、利用者の体力や知識・経験に応じた各種ガイドツアーや、グリーンシーズン・ホワイトシーズンのアクティビティ、ウォーターアクティビティなど、自然特性を活かした様々な体験プログラムが提供されている。本地域で行われている体験プログラムは、概ね下表の9種類に分類できる。



トレッキング



スノーシューハイキング



サイクリング
(イナイチ：猪苗代湖一周サイクリング)



カヤック



ジオツアー



自然体験教室・自然観察

磐梯吾妻・猪苗代地域で行われている主な体験プログラムの分類

分類	体験プログラム
原生的な自然を体感する活動	登山、トレッキング、キャンプ
自然の営みに触れる活動	ジオツアー、天体観測、バイナリー発電見学
農漁業等を体験することで自然への理解を深める活動	収穫体験、魚釣り（ワカサギ釣り等）
環境教育を主目的にした活動	自然体験教室・自然観察、防災教育
地域の生活や文化を体験する活動	クラフト（農業体験、守り狐絵付け体験、赤べこ絵付け体験、こけし絵付け体験等）
環境保全のために実際に貢献をする活動	外来種除去活動
スノーアクティビティ	スノーシューハイキング、スノーバイク、スノーボード、スキー、スノーモービル
ウォーターアクティビティ	SUP、カヤック、カヌー、沢登り
サイクルスポーツ	サイクリング、ヒルクライム



磐梯吾妻・猪苗代地域で行われている体験プログラムの分布状況

(7) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域の課題

現状を踏まえた磐梯吾妻・猪苗代地域の課題を以下に整理した。

1) 本公園及び周辺地域を含む磐梯吾妻・猪苗代地域のブランディング

これまでは、磐梯朝日国立公園として火山活動により形づくられた地形地質や豊かな自然環境の魅力を伝えることを中心として情報発信を行ってきたところであるが、本公園及び周辺地域を含む磐梯吾妻・猪苗代地域の魅力は、自然と地域の歴史・文化に深いつながりがあることであり、国内外に地域固有の価値を伝えるためには地域ブランディングが必要である。

2) インバウンドの回復・拡大に向けた受入環境の整備

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の観光客が大幅に減少し回復が求められるところであるが、今後は近年のアウトドアレクリエーションの人気上昇に加えて、感染リスクを考慮して自然地域への観光ニーズがさらに高まることが予想される。

そのため、新型コロナウイルスの影響前のインバウンドの回復、さらに拡大を目指すためには、これまでのメインターゲットであったアジア圏だけでなく、欧米豪にもターゲットを広げてハード及びソフトの両面からインバウンドの受入環境の整備が必要である。

3) 自然と歴史・文化を活かした体験プログラムの拡充、新たなコンテンツの開発

本地域においては周辺地域及び首都圏からのリピーターが多く、滞在型・体験型ツーリズムへのニーズが高まっていることから、地域の自然と歴史・文化を活かした体験プログラムや魅力的なアクティビティの拡充が求められている。

また、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の新たなライフスタイルに対応して、ワーケーションなどの受入環境を整備し、これまでになかった新たなコンテンツを開発することが必要である。

4) 地域連携による情報提供

磐梯吾妻・猪苗代地域では、これまでは市町村を基本単位として、魅力的な資源やコンテンツについてPRや情報発信により、それぞれの地域への誘客の取組が進められてきたところである。しかし、観光により地域経済の活性化を図るためには、地域全体として長期滞在・地域周遊につなげることが重要であり、それぞれの地域の枠を超えて、磐梯吾妻・猪苗代地域を一つの地域として情報提供を行うことが必要である。

5) 眺望・景観の保全

繁茂した樹林による眺望阻害

高低差のある本地域内には、沿道を中心に美しい眺望を望めるビュースポットが点在しているが、樹林の繁茂により眺望対象が望めなくなっている箇所が少なくない。迫力のある自然が観られることは当公園の魅力の一つであり、眺望の確保に向けた対策が必要である。



樹林の繁茂により眺望が阻害されている箇所の例
(左：双竜峡駐車場、右：鬼沼)

廃屋による景観上の価値・魅力の棄損

公園区域内においても使われなくなった宿泊施設などを中心に廃屋化が進み、景観に支障を及ぼしているほか、治安や安全、衛生上の問題を引き起こしている。公園の価値や魅力の保全に向けては、これらの廃屋問題への対応が求められている。



眺望を阻害している廃屋の例（浄土平）

電柱・電線による景観価値の棄損や眺望阻害

沿道からの眺望景観が魅力の一つである本地域では、沿道の電柱や電線がその魅力を損なっている場合も見受けられる。また、古くからの温泉街においても、電柱や電線により街の景観や雰囲気損なわれているという声が上がっている。そのため、電柱・電線による景観阻害も課題の一つである。



電線による眺望阻害の例

外来植物の繁茂による景観の悪化

その土地ならではの様々な野生生物が生息する環境を保護することは自然公園の大きな目的の一つであるが、近年、オオハンゴンソウなどの外来植物の侵入により在来の生態系への影響や景観の悪化が懸念されている。本地域の自然環境及びそれからなる景観保全に向けて対応が求められている。



繁茂したオオハンゴンソウ

6) 登山道・探勝路の適切かつ持続可能な整備・維持管理

登山道・探勝路の荒廃

整備・維持管理主体が不明確な箇所や、管理主体はあるものの整備・維持管理が行き届いていない箇所の存在、維持管理を請け負う作業者の高齢化による作業人員の不足により、登山道や探勝路の荒廃や、標識等の施設の老朽化が進行しており、道迷いや転倒・滑落など、遭難事故につながる要因となっている。そのため、各々の登山道の特性を把握し、登山者の利用状況や自然環境、荒廃状況に応じて、持続可能な整備・維持管理の取組が求められている。



老朽化し倒壊した標識



斜面崩壊による危険箇所

利用集中による環境負荷の増大

ハイシーズンである夏季や紅葉期には登山利用が集中し、登山道の洗掘の進行や周辺植生の荒廃など環境負荷が増大しているほか、駐車場の混雑により、路上駐車増加の要因となっている。また、トイレ整備の不足により、登山道や山小屋周辺では公衆衛生上の問題が懸念される。利用集中によって生じる環境負荷を低減し、自然環境の保全と利用のバランスをとることが求められている。



登山利用者集中状況(安達太良山)



路上駐車状況(雄子沢川登山口)

7) 地域のサステナブル・ツーリズムの先導

地域のサステナブル・ツーリズムの先導

国立公園を中心とした地域循環共生圏の確立に向けて、地域の持続可能性を高めるためにも、本公園がサステナブル・ツーリズムの展開、SDGsの達成に向けて先頭に立って、地域との連携による取組を行っていくことが必要である。

本地域では、国立公園の豊かな自然資源や磐梯山ジオパークとしての地形の成り立ちを守りながら活かすエコツーリズムが実践されているが、その理念に基づくエコツアーを地域全体に拡大、推進していくことが必要である。これらのエコツアーを持続的に提供するため、ガイドの育成や質の向上を図る取組も必要である。

今後、ますます地球規模やその基本単位となる地域におけるサステナビリティの必要性が高まっていく中で、SDGsの観点からも国立公園を軸とした地域の連携が重要である。

自然資源の適正利用

磐梯吾妻・猪苗代地域では、行政及び民間事業者・団体等の多様な主体により、人と自然の関わりの中かで育まれた歴史・文化も含めた広い意味での自然資源を活用したサービスが提供されている。また、これまで積極的に利用されてこなかった遊休地やグリーンシーズンのスキー場などには、潜在的な魅力を持っている自然資源が多く残されており、今後のさらなる利活用が期待されているところである。

そこで、磐梯吾妻・猪苗代地域の自然環境の保全と利活用のバランスを保ち、地域経済の循環及び地域コミュニティの持続可能性を確保するためには、自然資源の利活用において守るべき基本的な考え方やルールを関係者間で共有することが必要である。

公共交通の利用促進・環境にやさしいモビリティへの転換

本地域においては、観光のハイシーズンにおけるピーク時の交通量の増加による環境負荷や利用者の快適性・満足度への影響が懸念される。また、高齢化対策やインバウンド誘客の側面からも、今後は地域の二次交通として鉄道・バス等の公共交通の役割が重要視されている。地域を支える視点からも利便性を向上することにより、国内外の観光客のアクセスとして公共交通へ誘導していくことが必要である。

さらに、脱炭素化に向けて、公園内の移動手段をシェアサイクルや電気自動車などの環境にやさしいモビリティに転換していくことも必要である。

2. コンセプト・ビジョンと基本方針

(1) 磐梯吾妻・猪苗代地域のかげがえのない価値

磐梯吾妻・猪苗代地域の自然と人の暮らし、歴史・文化がともにあることによって生まれたかけがえのない価値を伝えるストーリーをとりまとめた。

繰り返す噴火がつくりあげた大地

この火山と湖の大地は、磐梯山、吾妻連峰の山々、安達太良山などが噴火を繰り返すことでかたちづくられた。特に明治 21(1888)年の噴火では、磐梯山は中央がえぐれた特徴的な姿となり、桧原湖、小野川湖、秋元湖や雄国沼、毘沙門沼など、裏磐梯の 300 余りもの湖沼が生まれた。



吾妻小富士

猪苗代湖も度重なる火山活動により盆地の水が堰き止められてできたとされており、吾妻連峰では、吾妻小富士のすり鉢状の火口や荒涼とした浄土平がつくられた。はるか昔から今も繰り返す噴火の記憶が大地に刻まれ、山々より眼下に見る壮大な景観となって現れている。

自然と人の営みが織りなす風景

噴火によって絶え間なく地形が変化し、植生が失われるため、荒涼の大地に少しずつ草花が育ち豊かな森林が形成される途上にある。そのため火山礫に覆われた荒々しい山肌、湿原を美しく染める草花、厳しい環境で咲く高山の花々、アカマツ林や緑豊かなブナの林など、世界的にも貴重な変化に富んだ美しい自然の風景を見ることができる。



雄国沼のニッコウキスゲ

人の暮らしはいつもこの自然の営みとともにある。火山の恵みを受けて、歴史あるいくつもの名湯を開き、湯守文化を受け継いできた。湖の豊かな水で広大な田畑を潤し、雄大な山々の下で桃やさくらんぼの果樹園など、農の暮らしを営んでいる。春になると吾妻小富士に現れる雪形の「種まきうさぎ」は、農に関わる風景として親しまれている。さらに今では、登山・トレッキングやカヌー、湖水浴、サイクリング、スキー、キャンプなど、季節ごとの様々なアクティビティを通じて、火山や湖などの自然との新しい関係が築き上げられている。

氷雪の造形美と雪国の暮らし

この地域、特に会津・米沢のもう一つの特徴は、日本屈指の豪雪地帯であることであり、ここでしか見られない美しい冬の風景がある。山々は陰しく白くそびえ、標高の高い湖沼群は全面結氷し、広大な雪原になる。ユーモラスで表情豊かなかたちの樹氷や猪苗代湖のしぶき氷は、ここでしか見られない自然の造形美である。



全面結氷した桧原湖

雪国の長い冬は地域独自の多様な文化を育んできた。雪の重みと寒さに耐える会津若松・喜多方の伝統建築の街並みや、田園の屋敷を守る居久根（いぐね）と呼ばれる防風林を今でも見ることができる。雪に包まれる湿潤な気候にあった会津塗などの伝統工芸や、冬期の食料の確保のために育まれた発酵食品や醸造などの文化が伝承されており、郷土料理や数々の銘酒に出会うことができる。吾妻五葉松の盆栽は、厳しい吾妻連峰の山麓の自然のなかで風雪に耐え忍び力強く生きる吾妻山の木々をモチーフとして生まれたものである。このように雪国ならではの豊かな文化を知り、人との交流により暮らしにふれられることがこの地域の魅力である。

東北の自然と歴史、ここにしかないもの

東北の山々は山岳信仰の対象として精神文化の柱をなしていた。磐梯山、吾妻山も古来より霊験あらたかな修験道の聖地とされ、山中では修験者（山伏）が修行していた。磐梯山の麓、国指定史跡の慧日寺跡は、平安時代の初期に開かれた山岳寺院だが、磐梯吾妻修験の拠点ともなっていると伝えられている。



会津若松城（鶴ヶ城）

また、この地域には、米沢城、会津若松城（鶴ヶ城）、福島城、二本松城の4つの城があり、伊達政宗や上杉鷹山、松平容保らの日本の歴史と深いつながりのある人物の生涯と、火山と湖の雄大な風景はともにあった。特に二本松から会津に至る地域一帯は、幕末には歴史の転換点ともなる会津戦争の舞台となった。

このように磐梯吾妻・猪苗代地域は、噴火によってつくられた火山と湖の自然、雪国の文化を伝えるいわば東北を代表する地域でありながら、一方では近世から近代につながる東北の歴史そのものを語り継ぐ地域でもあり、ここにしかない唯一無二の自然と歴史・文化の深いつながりを感じることができる地域であると言える。

(2) 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域のコンセプト

本公園及び周辺地域を含む磐梯吾妻・猪苗代地域の特徴は、かけがえのない価値としてストーリーに表したように、磐梯山に代表される火山群の活動によって形成された壮大な景観と遷移の途上にある変化に富んだ自然があることと、その自然の恵みを受けて培われてきた歴史・文化が根付いていることにある。

磐梯吾妻・猪苗代地域では、火山と湖沼に代表される自然景観と人と自然のつながりをこの地域ならではの価値として、コンセプトを以下のとおりとする。

宝の山々と虹色の瞳、見上げれば「ほんとの空」

(解説)

- 火山を”宝の山々”とする当地ならではの表現で人との関わりを表現
- 色鮮やかで鏡のように美しく”瞳”とも呼ばれる湖沼を”虹色の瞳”と表現
- 公園全体を覆う青空の風景を“ほんとの空”という当地にしかない言葉で表現
- 当地で見られるこれらの特徴的な風景を実際にその場に立って眺めていると
感じられるように表現

(3) ありたい未来（ビジョン）

磐梯吾妻・猪苗代地域のコンセプトに基づいて、国・県・市町村及び民間事業者・団体等の多様な関係主体が、本公園だけでなく周辺地域も含めて一体的に目標とする将来イメージを共有し、協力しながら魅力向上のための取組を実施するために、「ありたい未来（ビジョン）」を以下のとおりとする。

磐梯吾妻・猪苗代地域のありたい未来（ビジョン）

- ・いつでも 心揺さぶる自然がある
- ・誰でも 心躍る体験がある
- ・何度でも 心惹かれる歴史・文化が待っている

これからも誰もが自分らしくいられるそんな地域でありたい。

（解説）

繰り返す噴火によってかたちづくられた磐梯山、吾妻連峰、安達太良山や、噴火によってせき止められた川からできた色とりどりの湖、樹氷やしぶき氷など自然の造形美がいつでも訪れる人の心を揺さぶる。そんな変化に富んだ自然や風景をいつまでも残していきたい。

また、同時にこの自然の魅力を活かした本格的な登山から気軽に楽しめるトレッキング、カヌー、スキー、キャンプなどがあらゆる利用者の心を躍らせる。そんな魅力ある体験を提供したい。

さらに、戦国時代から日本を動かす舞台となった歴史、豪雪地ならではの気候から生まれた一刀彫や会津塗りなどの文化が何度でも訪れる人の心を惹きつける。そんな歴史・文化を大切に守り伝えていきたい。

これらの地域の魅力をさらに磨き上げ、国内外から訪れる人々と交流しながら、人々が誇りを持って自分らしく生きて、未来に引き継がれていく。そんな地域でありたい。

(4) 基本方針

「ありたい未来（ビジョン）」の実現に向けて、磐梯吾妻・猪苗代地域の魅力向上のために行政だけでなく民間事業者・団体等とも広く連携しながら、重点的に取り組むべき方向性を示すものとして、6つの基本方針を設定した。

基本方針1：地域の最大の魅力である自然環境・景観の保護及び歴史・文化の継承

地域の最大の魅力であり住民生活の基盤ともなっている豊かな自然環境・景観を保護するとともに、自然を背景として積み上げられてきた地域独自の歴史や文化を将来世代にも継承していく。

基本方針2：国立公園の適正な利用促進による地域社会・地域経済への貢献

磐梯吾妻・猪苗代地域の変化に富んだ豊かな自然を最大の魅力として活かして、国立公園の利用促進を図るとともに、自然とともにある歴史・文化を活かして、観光振興だけでなく伝統工芸や伝統芸能、農林水産業などの活性化によって、地域社会・地域経済に貢献する。

基本方針3：磐梯吾妻・猪苗代の三地域をつなぐ広域ネットワークの形成

10市町村にまたがる磐梯吾妻・猪苗代地域において周辺地域を含めた広域的な観光圏を形成し、長期滞在や広域周遊、人との交流ができる地域とするために、行政、民間事業者・団体等の広域ネットワークを構築し、地域一体となって受入環境整備や情報発信を進める。

基本方針4：磐梯朝日国立公園を核としたサステナブル・ツーリズムの展開

自然資源を適切に保全しながら活用することによって、地域経済の循環及び地域コミュニティの持続可能性を確保することを目指して、国立公園を核として地域へのサステナブル・ツーリズムの展開・拡大を推進する。

基本方針5：ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた段階的・複層的な取組展開

現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響下にあるため、国内外の旅行が制限されている状況にあるが、新しい生活様式が確立されるウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えて、社会状況に順応して段階的・複層的に取組を展開する。

基本方針6：この地域にしかない上質な体験の提供

アドベンチャーツーリズムなどの体験型の観光への関心の高まりを機会ととらえて、この地域にしかない自然と歴史・文化を活かした付加価値の高い上質な体験を提供することによって、観光客数の増加だけでなく、利用者の満足度の向上や消費単価の上昇につなげる。

3. ターゲット

磐梯吾妻・猪苗代地域の魅力向上を図り、地域内・国内・海外を問わず、利用者を惹きつけるためには、ターゲットを設定して取り組むことが必要である。また、新型コロナウイルスの影響を考慮して、国内誘客の強化を図りながら、インバウンド需要の回復を目指すことが必要である。さらにウィズコロナ・ポストコロナ時代の新たなニーズに応えることも求められる。そのため、国内外を含めてこれまで以上に幅広い層への訴求することを目指して、ターゲットを以下のように設定する。

1) 自然と歴史・文化がともにある地域の魅力を求める利用者層

本地域ならではの魅力は、火山地域での原生的な自然体験だけでなく、城下町などの歴史遺産や温泉、食、農業、伝統工芸などの歴史・文化体験ができることにある。そのため、従来の深い自然体験を求める利用者層に加えて、自然体験には不慣れであっても、自然と歴史・文化がともにある地域の魅力を求める幅広い利用者層の獲得を目指す。

2) 年間を通じて繰り返し訪れる“地域のファン”となる利用者層

近距離圏でのアウトドアレクリエーションの需要の増大を捉えて、都市圏に近くにありながら、雪国ならではの季節ごとの楽しみがある本地域の魅力をアピールすることによって、年間を通じて繰り返し訪れる“地域のファン”となる利用者層の獲得を目指す。

3) ウィズコロナ・ポストコロナ時代の新たなライフスタイルの利用者層

ウィズコロナ・ポストコロナ時代のニーズを展望し、これまでにリゾート地として整備してきたインフラを活かしながら受入環境の充実を図り、ワーケーションやソロキャンプなどの新たなライフスタイルやアウトドアレクリエーションに関心の高い利用者層の獲得を目指す。

4) 長期滞在・地域周遊を求める利用者層

国内外のアドベンチャーツーリズムの人気上昇などにより、特別な体験ができる地域での滞在ニーズが高まることを見据えて、自然、歴史・文化など毎日新しい体験や出会いがある地域として受入環境を整備することで、長期滞在や地域周遊を求める利用者層の獲得を目指す。

5) 海外からの旅行再開後のインバウンド層

現在は新型コロナウイルス感染拡大により、全世界的に旅行者の往来が著しく減少している状況であるが、海外からの旅行が再開されるウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えて、磐梯吾妻・猪苗代地域ならではのナショナルパークでの滞在の魅力を打ち出し、速やかなインバウンドの需要回復を目指す。

4. 目標

「国立公園満喫プロジェクト」では、訪日外国人利用者数 1000 万人を目標としてきたところであるが、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、まずは、国内利用者の回復が求められている状況を考慮して、「地域の観光入込客数」、「訪日外国人利用者数」の目標を以下のとおりに設定するとともに、「地域観光の質の向上」の目標を併せて設定する。

1) 地域の観光入込客数の目標

新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮して、当面は重点的に取り組むべき国内誘客強化の指標として、関係 10 市町村観光入込客数を令和元(2019)年度の 2989 万人と比較して約 24%増の 3700 万人にすることを目標値に設定する。



出典：山形県観光者数調査、福島県観光客入込状況

2) 磐梯吾妻・猪苗代地域の訪日外国人公園利用者数の目標

海外からの旅行が再開されるウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えたインバウンドの需要回復・拡大の指標として、磐梯吾妻・猪苗代地域の訪日外国人公園利用者推計値を令和元(2019)年度の 1.1 万人と比較して約 2.7 倍の 3.0 万人にすることを目標値に設定する。



出典：環境省訪日外国人利用者推計値

3) 地域観光の質の向上の目標

受入環境の充実やコンテンツの開発、プロモーション活動による地域観光の質の向上を取組の進捗状況の目標として、今後実施する調査等の結果を踏まえて以下のいずれかから定量的な目標値を設定する。

- ① 県外及び県内からの滞在者数
- ② 地域の観光消費単価
- ③ 利用者満足度及び地域事業者満足度
- ④ 磐梯朝日国立公園 磐梯吾妻・猪苗代地域の認知度

5. プロジェクトの実施

基本方針に基づき、重点的に取り組む事項として、行政、民間事業者・団体等と連携して実施するプロジェクトを以下に示す。

重点的に取り組む事項 1：磐梯吾妻・猪苗代地域の魅力を伝えるストーリーを活かした地域ブランディングの推進

<概要>

磐梯吾妻・猪苗代地域の最大の魅力は豊かな自然とともに歴史・文化が培われてきたことであり、この魅力を国内外に打ち出し観光プロモーション等に活かしていくために、まずは関係者がストーリーを通して、この地域にしかない価値についての認識の共有を図る。

また、利用者に対しては地域の魅力を伝えるストーリーを活かしたコンテンツを開発・提供するなど、関係者が連携して地域全体のプロモーションを展開するため、地域ブランディングを推進する。

<取組内容>

- ① 関係機関が方向性を共有して地域ブランディングに取り組んでいくためにプロモーション計画を作成し、今後実施すべき取組のロードマップを位置付けた上で、プロモーション活動を実施する。
- ② ワークーションやアドベンチャーツーリズムなどのニーズに応え、地域の資源を活かした新たなサービスを提供するため、既存コンテンツの深化や新たなコンテンツ開発を進めるとともにモデルツアーを実施する。
- ③ インバウンドの受入環境整備のため、今後新たに設置する案内看板などのサインに記載する地名や用語を統一するために多言語化ガイドラインを作成する。
- ④ 地域全体の情報を利用者に提供するため、情報の集約・発信の方法、実施主体、運営の連携体制など、関係機関の協議により、検討を進める。

重点的に取り組む事項２：磐梯吾妻・猪苗代地域の多様性に富んだ象徴的な景観の国内外へのアピールに向けた景観改善の推進

<概要>

磐梯吾妻・猪苗代地域の火山が生んだ独特の地形・地質や変化に富んだ自然の魅力は、地域に多く点在するビュースポットや、観光道路などのロードサイドからの景観を見ることによって伝えられるところが多いが、一方で樹木の成長により眺望が阻害されている状況があるため、地域の重要な景観資源の保全に向けて、関係者の連携により景観改善に取り組む。

また、地域においては、廃屋や電線・電柱、外来植物等の景観阻害要因があり、これらの対策が課題となっているため、施設管理者及び行政、民間事業者・団体等が協議を進め、連携して改善の取組を進める。

<取組内容>

- ① 目標とする景観改善の基礎となる「景観改善の考え方」を策定する。
- ② 「景観改善の考え方」に基づく通景伐採及び廃屋撤去に関するガイドラインを策定する。
- ③ 樹木の繁茂により眺望が妨げられているビュースポットの改善（通景伐採や展望施設の設置等）を推進する。
- ④ 残置された廃屋により景観が悪化しているエリアにおいて、実施主体とスキームを検討し、廃屋撤去に向けた取組を推進する。
- ⑤ 外来植物が景観を阻害しているエリアについて、対策の際に踏まえるべきポイントを整理するとともに、既に取り組んでいる団体等と連携し、外来植物防除による景観改善を推進する。
- ⑥ 電線・電柱が景観を阻害しているエリアを抽出し、無電柱化に向けた作業スケジュールや実施主体を検討し、無電柱化に向けた取組を推進する。

重点的に取り組む事項３：磐梯吾妻・猪苗代地域の豊かな自然を体験する登山道・探勝路の適切かつ持続可能な整備・維持管理の推進

<概要>

磐梯吾妻・猪苗代地域では、広い範囲において登山道、探勝路が整備されており、登山愛好家や深い自然体験を求める上級者だけでなく、気軽に豊かな自然を楽しむことを期待する初心者でも受け入れられることが特徴となっている。しかし、整備・維持管理主体が不明確な箇所や、管理主体はあるものの、整備・維持管理が行き届いていない箇所が存在している。また、維持管理を請け負う作業者の高齢化による作業人員の不足により、整備・維持管理の継続が課題となっている。

一方で、これらの登山道・探勝路の全てについて一律の基準によって整備・維持管理を行うことは、必要最小限の整備にとどめるべき自然資源の適切な利用の観点からも相応しくない。

そのため、各々の登山道の特性を把握し、登山者の利用状況や自然環境、荒廃状況に応じて、利用者のレベルに合わせた安心・安全な利用を前提として、管理者の明確化や持続可能な整備・維持管理について、関係者との情報共有と協議を続けながら取組を推進する。

<取組内容>

- ① 登山道・登山道施設の利用上の課題や、周辺環境の保全上の課題を踏まえて、登山道・探勝路の課題の程度を示す保全対策ランクを設定し、利用者の安全性を最優先に整備・維持管理を推進する。
- ② 登山道の難易度を示す山のグレーディングや利用実態に応じて、登山道・探勝路の利用特性を評価した利用体験ランクを設定し、利用者の技量、路線周辺の自然性、安全性や快適性を考慮した整備・維持管理を推進する。
- ③ 登山道・探勝路の利用実態や整備・管理状況に応じて、官民一体となった維持管理運営体制を構築し、管理者の明確化や持続可能な整備・維持管理を推進する。
- ④ 整備・維持管理方針に基づき、関係機関の連携による取組を推進する。

重点的に取り組む事項４：自然資源の利活用方針の策定による地域コミュニティの持続可能性の確保とエコツーリズムの推進

<概要>

磐梯吾妻・猪苗代地域において、今後も行政及び民間事業者・団体等の多様な主体により、人と自然の関わりのなかで育まれた歴史・文化も含めた広い意味での自然資源を活用したサービスを提供し、地域経済の循環及び地域コミュニティの持続可能性を確保するために、こうした自然資源を活用する上で守るべき基本的な考え方やルール共有に向けて、自然資源の利活用方針を定め、これまで積極的に利用されてこなかった潜在的な魅力を持っている自然資源の活用方策についても検討する。

また、本公園を核として、地域において広域的かつ継続的にエコツーリズムを提供するために、安全性向上やインバウンド対応なども考慮して、サービスの質の向上と併せて収入の向上を図るためのガイドやインストラクター等の人材育成のしくみについて検討を進める。

<取組内容>

- ① 自然環境の保全と利活用のバランスを保ち、地域経済の循環及び地域コミュニティの持続可能性を確保することを目指して、自然資源の利活用方針を策定する。
- ② エコツーリズムを中心としたガイドやインストラクターとなる人材の育成のため、定期的な研修などのスキルアップの仕組みを検討する。
- ③ スキー場のグリーンシーズン利用など、潜在的な自然資源の適切な利活用について検討する。
- ④ 自然資源の有効な利活用に関する行政、民間事業者・団体等による地域ネットワークの形成のためのプラットフォームやビジターセンター等の施設間の連携を促進する仕組みを構築する。

重点的に取り組む事項５：公共交通機関の利用促進及び環境にやさしい移動手段の推奨 による環境負荷の低減の推進

<概要>

磐梯吾妻・猪苗代地域におけるサステナブル・ツーリズムを先導する国立公園として、観光ハイシーズンの利用の集中や、交通渋滞の発生による環境負荷の低減に向けて、パーク＆ライドなどの公共交通機関の利用促進について、交通事業者等との連携により検討を進める。

また、利用者自身が国立公園を核とする地域において、観光の際に環境にやさしい移動手段を選択できるように、自転車や新たなモビリティなどのシェアリングサービスの導入に向けた検討を進める。

<取組内容>

- ① 交通事業者などと現状の課題やインバウンドも含めた公共交通機関の利用促進等について、意見交換・情報共有を進める。
- ② ニッコウキスゲの開花時期や夏休み、紅葉時期などのハイシーズンにパーク＆ライドを導入して交通渋滞を解消するなど、自動車による環境負荷の低減策を検討する。
- ③ 国立公園内の環境にやさしい移動手段として自転車、e-バイク、グリーンスローモビリティなどの地域でのシェアリングサービスの提供に向けた社会実験等について検討する。

6. 役割分担とスケジュール

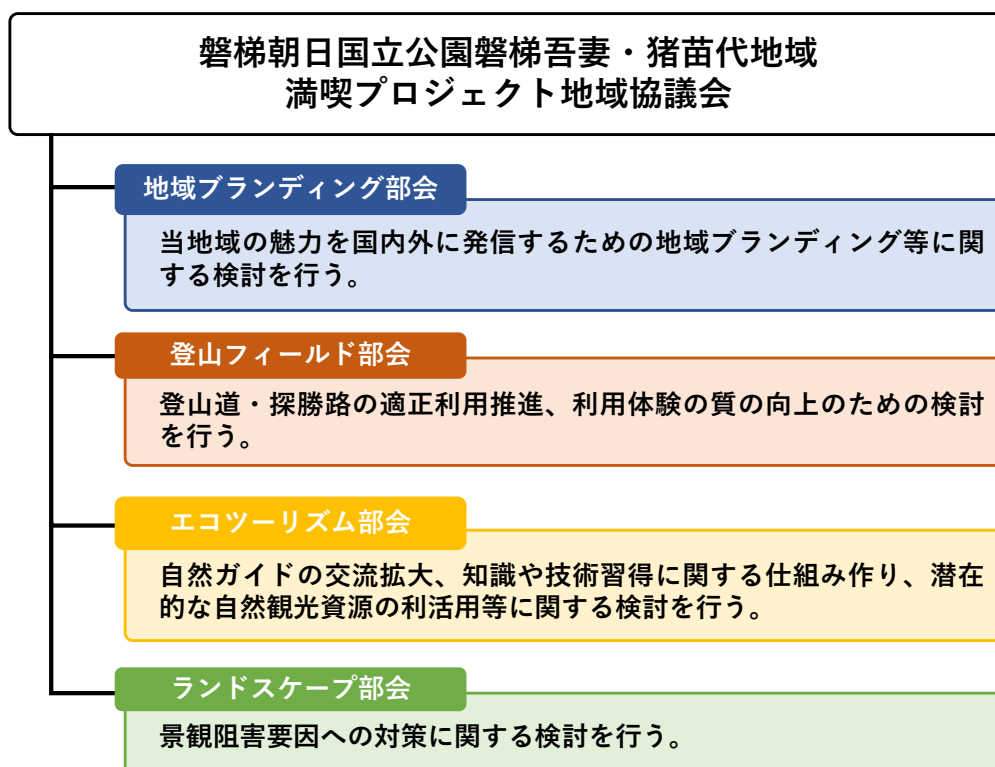
本プログラムに基づくプロジェクトについては、国・県・市町村及び民間事業者・団体等が連携して役割分担により相互に補完しながら実施することとする。また、スケジュールについて、下表に示すとおり、令和3(2021)年度から令和7(2025)年度の5ヶ年を計画期間とする。

スケジュール

重点的に取り組む事項	プロジェクト	実施時期の目標				
		令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度
重点的に取り組む事項1 磐梯吾妻・猪苗代地域の魅力を伝えるストーリーを活かした地域ブランディングの推進	1) プロモーション計画・ロードマップの策定					
	2) プロモーション活動の実施					
	3) 新たなコンテンツの開発・モデルツアーの実施					
	4) 多言語化ガイドラインの作成					
	5) 地域連携による情報発信の検討					
重点的に取り組む事項2 磐梯吾妻・猪苗代地域の多様性に富んだ象徴的な景観の国内外へのアピールに向けた景観改善の推進	1) 『景観改善の考え方』の整理・方針策定					
	2) 「景観改善の考え方」及び通景伐採及び廃屋撤去に関するガイドラインの策定					
	3) ビュースポットの改善（通景伐採や展望施設の設置等）					
	4) 廃屋撤去					
	5) 外来植物防除		モデル事業 対象エリア抽出			
	6) 無電柱化		対象エリア抽出			
重点的に取り組む事項3 磐梯吾妻・猪苗代地域の豊かな自然を体験する登山道・探勝路の適切かつ持続可能な整備・維持管理の推進	1) 保全対策ランク設定に係る検討				更新	
	2) 利用体験ランク設定に係る検討				更新	
	3) 整備・維持管理方針の策定					
	4) 整備・維持管理の実施			モデル事業		
重点的に取り組む事項4 自然資源の利活用方針の策定による地域コミュニティの持続可能性の確保とエコツーリズムの推進	1) 「自然資源の利活用方針」の策定					
	2) エコツーリズムのスキルアップの仕組みづくり		研修試行		研修会開催	
	3) 潜在的自然資源の利活用		計画策定		個別事業	
	4) 地域ネットワークの検討		Pf設置 施設間連携検討		Pf運営 施設間連携事業	
重点的に取り組む事項5 公共交通機関の利用促進及び環境にやさしい移動手段の推奨による環境負荷の低減の推進	1) 交通事業者等との意見交換・情報共有					
	2) 公共交通の利用促進（パーク＆ライド等）		取組検討		取組実施	
	3) 環境にやさしい移動手段の導入検討			検討		

7. 取組の推進体制

本プログラムの策定にあたって設置した「磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会」及びその下部機関である4つの部会は、本プログラムの策定以降においても、「ありたい未来（ビジョン）」を共有して、磐梯吾妻・猪苗代地域の魅力向上のための関係機関の連携体制を維持し、取組の進捗状況をモニタリングしながら継続的に取り組むものとする。



8. 効果検証

本プログラムの改善・更新につなげるため、取組の進捗状況の確認と、定量的データによる継続的なチェックを行う。

また、定期的に関係機関へのヒアリング調査、民間事業者との意見交換会等を実施し、本プログラムに基づく取組の進捗状況について把握する。

1) 取組の進捗状況の指標によるチェック

「磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会」及びその下部組織である部会を通じて、「4.目標」で設定した目標の達成に向けて、取組の進捗状況を定量的に評価する指標によるチェックを継続的に実施する。

2) 関係機関へのヒアリング調査

本プログラムに基づき各関係機関が実施するプロジェクトについて、取組の進捗状況を把握するため各関係機関への定期的なヒアリング調査を実施する。

3) 民間事業者との意見交換会

本プログラムに基づくプロジェクトの実施効果を把握するため、宿泊・飲食・温泉、ガイド・アクティビティ、公共交通などの民間事業者との意見交換会を開催し、事業への波及効果等について情報共有し、本プログラムの更新・改善の参考とする。

9. プログラムの更新・改善

「8. 効果検証」の結果を踏まえて、効果が出ている取組の目標の更新や、進捗が遅れている取組の見直しなどを行い、本プログラムの更新・改善を行う。

磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会
設置要綱

〔名称〕

第1条 本会は、「磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会」（以下、「協議会」という。）と称する。

〔目的〕

第2条 本会は、磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域において、関係機関の相互の連携を図り、国立公園の自然等の魅力を将来世代に引き継げるよう保全しつつ活用して上質な体験やサービスを提供することにより、地域内・国内・海外問わず利用者を惹きつけ満足させる世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく国立公園満喫プロジェクトを推進することを目的とする。

〔協議事項〕

第3条 協議会は、以下に掲げる事項を協議する。

- （1）満喫プロジェクトを推進するための具体的なプログラム「磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域ステップアッププログラム2025」の策定に関する事項
- （2）「磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域ステップアッププログラム2025」の実施に関する事項
- （3）その他、第2条の目的を達成するために必要と認められる事項

〔構成員〕

第4条 協議会は、別表1に掲げる関係機関等をもって構成する。

- 2 協議会には会長及び副会長を置き、会長は東北地方環境事務所長とし、副会長は福島県生活環境部長及び山形県米沢市長とする。
- 3 会長は、必要に応じアドバイザーを招集することができる。
- 4 構成員は、協議会が認めた場合に追加することができる。
- 5 構成員が退会する場合は、協議会事務局に退会する旨を申し出ることとする。

〔会議〕

第5条 会議は、必要に応じて会長が招集する。

- 2 議事は、会長が進行する。会長不在の場合には、あらかじめ会長が指名した者が議事を進行する。

(部会)

第6条 磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域における具体的な事項を検討するため、必要に応じテーマ別部会を設置することができる。

2 部会の組織及び運営に必要な事項については、会長が別に定める。

(事務局)

第7条 本会の事務を処理するため、東北地方環境事務所、福島県生活環境部自然保護課及び山形県米沢市観光課に事務局を置く。

(改正)

第8条 この要綱は、第3条に規定する協議会の構成員の発議により、協議会に出席した構成員の合意を得て、改正することができる。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

付 則 この要綱は、令和 3年 7月13日から施行する。

磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会 名簿

機関名	役職
《国》	
東北地方環境事務所	所長
東北運輸局	観光部長
東北地方整備局	企画部長
関東森林管理局	計画保全部長
東北森林管理局	計画保全部長
《県》	
福島県 生活環境部	生活環境部長
山形県 環境エネルギー部	環境エネルギー部長
山形県 観光文化スポーツ部	観光文化スポーツ部長
《市町村》	
米沢市	市長
福島市	市長
会津若松市	市長
郡山市	市長
喜多方市	市長
二本松市	市長
大玉村	村長
北塩原村	村長
磐梯町	町長
猪苗代町	町長
《市町村観光協会》	
公益財団法人 福島県観光物産交流協会	理事長
一般社団法人 米沢観光コンベンション協会	会長
一般社団法人 福島市観光コンベンション協会	会長
一般財団法人 会津若松観光ビューロー	理事長
一般社団法人 郡山市観光協会	会長
一般社団法人 喜多方観光物産協会	会長
二本松市観光連盟	会長
大玉村観光協会	会長
裏磐梯観光協会	会長
磐梯町観光協会	会長
一般社団法人 猪苗代観光協会	会長
《温泉観光協会》	
特定非営利活動法人 土湯温泉観光協会	会長
高湯温泉観光協会	会長
一般社団法人 岳温泉観光協会	代表理事
白布温泉観光協会	会長
《山岳関係団体》	
東北山岳ガイド協会	会長
福島県山岳連盟	会長
米沢山の会	会長
吾妻の森と緑のトラスト運動	代表
高山の原生林を守る会	代表
あだたら山の会	会長
猪苗代山岳会	会長
《スキー場関係団体》	
株式会社 天元台	代表取締役社長
東北索道協会福島地区部会	会長
《交通事業者》	
東日本旅客鉄道株式会社 仙台支社	営業部長
山交バス株式会社	代表取締役社長
福島交通株式会社	代表取締役社長
会津乗合自動車	代表取締役社長
磐梯東部バス 猪苗代磐梯営業所	所長
《その他関係団体》	
裏磐梯観光活性化協議会	会長
NPO法人 裏磐梯エコツーリズム協会	会長
磐梯山ジオパーク協議会	会長
《有識者》	
文教大学	国際学部国際観光学科教授

磐梯朝日国立公園満喫プロジェクト

磐梯吾妻・猪苗代地域ステップアッププログラム 2025

発 行：磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会

事務局：環境省 東北地方環境事務所 国立公園課

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 3-2-23 電話 022-722-2874

福島県 生活環境部 自然保護課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町 2 番 1 6 号 電話 024-521-7251

米沢市 産業部 観光課

〒992-8501 山形県米沢市金池 5 丁目 2 番 25 号 0238-22-5111（内線 4200）